



平成30年 第1号

平成30年7月4日

# おきたま つや姫だより

やまがた攻めの米づくり日本一運動置賜地域本部

## 生育のバラつき注意！

## 圃場ごとの生育診断で“食味重視”の穂肥を！

つや姫の生育は、指標値に比べ、「草丈は短く」、「茎数並み～やや多く」、葉数「並み」、葉色は「並み～やや濃い」状況です。土壌還元（ワキ）等の影響により、生育が不足している圃場も見られ、例年になく生育のバラつきが大きく、圃場ごとの対応が重要です。出穂期は「平年並み～2日早い」予想です。穂肥が遅れないよう注意しましょう。また、葉色の濃い圃場は施用量を減らす等、生育診断に基づく適正施肥に努めましょう。

### 1. 生育状況（6月29日現在）

（ ）内は指標比・差

6月29日現在	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	川西町	37.7(-10.3)	513(103)	9.1(-0.2)	46.1(+6.1)
	飯豊町	37.5(-10.5)	562(112)	9.4(+0.1)	39.9(-0.1)
	指標	48.0	500	9.3	40.0

### 2. 中干しを行っていないところは、直ちに中干し・作溝を行きましょう！

中干しを行わないと、田んぼが締まらず、上根が張らず、穂肥の効果が十分に得られません。中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。生育量が大きい場合や葉色が濃い場合は強めに行い、生育量が小さい場合や葉色がさめかかっている場合は弱めに行いましょう。

## 出穂は平年並～2日早い見込み

**穂肥の目安 予想出穂期 8/9～11 → 穂肥時期の目安 7/10～12**

### 3. 全量出荷基準（玄米タンパク値）を達成へ 生育診断で食味重視の穂肥を

#### ○ 10葉期の生育診断《裏面図を参照》

##### ① 適正域

【m<sup>2</sup>あたり茎数が 600 本/m<sup>2</sup>以下、葉色が 39 以下の場合】→ 出穂 30 日前に **窒素成分 1.5 kg/10a**

##### ② 生育やや過剰・葉色やや濃い

【m<sup>2</sup>あたり茎数が 600～650 本/m<sup>2</sup>、または葉色が 39～41 の場合】→ 出穂 30 日前に **窒素成分で 1.0 kg/10a 以下**

##### ③ 生育過剰・葉色濃い

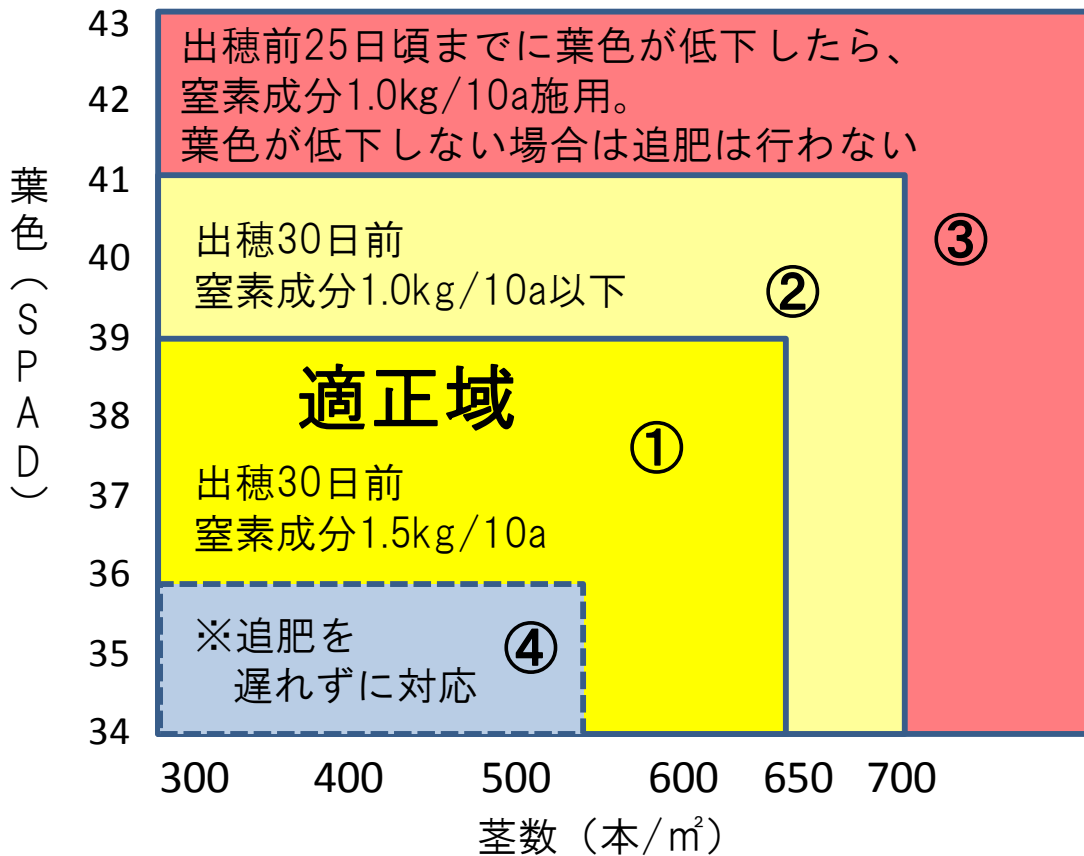
【m<sup>2</sup>あたり茎数が 650 本/m<sup>2</sup>以上、または葉色が 41 以上の場合】→ 出穂 25 日頃まで葉色が低下したら、窒素成分で 1.0 kg/10a 施用  
**葉色が低下しない場合は追肥を行わない。**

##### ④ 生育量小さい・葉色薄い

【m<sup>2</sup>あたり茎数が 500 本/m<sup>2</sup>以下、かつ葉色が 36 以下の場合】→ 出穂 30 日前より**遅れずに窒素成分で 1.5 kg/10a 以下**

※追肥量を多くすると消化しきれずにタンパクが高まる！

## 【10葉期の生育診断】



**追肥時期が遅れると、玄米粗タンパク含有率は確実に高まり、食味が低下しやすくなります！**

### 4. いもち病・斑点米カメムシ対策は万全に！

- 葉いもちの発生に十分な注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。
- イネ科雑草が繁茂している**畦畔・農道等の草刈り**を地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理も徹底**（※除草剤の使用時期を確認）しましょう。

**置賜全域で  
“アカヒゲホソミドリカスミカメ”の発生が多い！  
今年もカメムシには要注意です！！**



アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ



アカスジカスミカメ

### 農作業事故・熱中症に注意！

- 「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。
- 暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～